

令和 6 年 お茶づくり技術情報 (No.5)

2024 年 5 月 8 日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 一番茶作況

1) 生育状況

表 1 一番茶萌芽期

本 年	前 年	前 5 か年平均
3月 30日	3月 27日	3月 28日

注) 品種：やぶきた 樹齢：23 年生

表 2 作況調査園の芽長と開葉数

調査日	4月5日	4月10日	4月15日	4月20日	4月25日	4月30日
芽長 (cm)	本 年	1.0 ± 0.3	2.2 ± 0.6	5.1 ± 1.1	9.3 ± 1.4	
	前 年	1.2 ± 0.4	2.4 ± 0.7	4.4 ± 1.0	8.2 ± 1.6	10.6 ± 2.0
	前 5 か年	1.5 ± 0.4	2.7 ± 0.6	4.5 ± 0.9	7.2 ± 1.2	10.1 ± 1.5
葉数 (枚)	本 年	0.3 ± 0.4	1.4 ± 0.5	2.5 ± 0.5	3.7 ± 0.4	
	前 年	0.9 ± 0.5	1.4 ± 0.5	2.8 ± 0.4	3.9 ± 0.4	4.7 ± 0.5
	前 5 か年	0.6 ± 0.3	1.4 ± 0.5	2.3 ± 0.4	3.2 ± 0.4	4.1 ± 0.5

注) 4月30日の前5か年平均値は2020年、2022年の平均データ

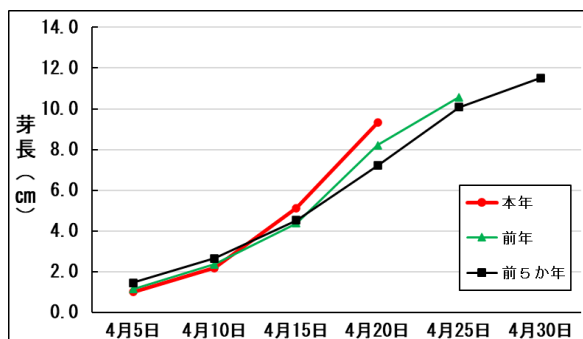


図 1 生育調査 (芽長)

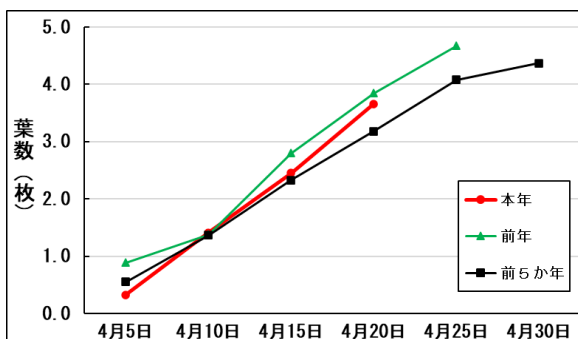


図 2 生育調査 (葉数)

- (1) 場内の作況園 (やぶきた) において、2024 年 3 月 30 日に一番茶の萌芽期を迎えた。本年の萌芽期は、前年より 3 日遅く、前 5 か年平均より 2 日遅かった (表 1)。
- (2) 萌芽後は、4 月の高温により早く生育した。芽長は 4 月 10 日時点では前年および前 5 か年平均より小さかったが、15 日時点で前年および前 5 か年平均より大きく推移した (表 2、図 1)。
- (3) 葉数は 4 月 20 日時点で 3.7 葉となり、前 5 か年平均より多く推移した (表 2、図 2)。
- (4) 一番茶の萌芽から摘採までの所要日数は、25 日間で、前 5 か年平均の 30 日間より 5 日間短かった。

2) 一番茶収量

表3 一番茶摘採日

本年	前年	前5か年平均
4月24日	4月26日	4月27日

表4 一番茶収量と収量構成要素

■一番茶収量 (kg/10a)

本年		前年		前5か年平均	
収量	指数	収量	指数	収量	指数
637.8 ± 72.1	119 (113)	564.3 ± 64.5	106	534.7 ± 58.8	100

注) 指数は前5か年平均を100とした値とし、上段には前5か年比、下段括弧内には前年比を示す。

■百芽重 (g)

本年		前年		前5か年平均	
重量	指数	重量	指数	重量	指数
72.9 ± 12.6	103 (104)	70.3 ± 3.1	100	70.6 ± 6.5	100

注) 指数は前5か年平均を100とした値とし、上段には前5か年比、下段括弧内には前年比を示す。

■新芽数 (本/m²)

本年		前年		前5か年平均	
芽数	指数	芽数	指数	芽数	指数
1131 ± 212	93 (85)	1331 ± 193	110	1214 ± 157	100

注) 指数は前5か年平均を100とした値とし、上段には前5か年比、下段括弧内には前年比を示す。

■出開度 (%)

本年	前年	前5か年平均
29.1 ± 8.9	26.2 ± 15.4	27.4 ± 8.3

- (1) 本年の一番茶摘採日は、4月24日で、前年より2日、前5か年平均より3日早かった(表3)。
- (2) 一番茶収量は、637.8kg/10aで、前年より13%多く、前5か年平均より19%多かった。出開度は前年・前5か年平均と同等であった(表4)。
- (3) 百芽重は、前年より4%、前5か年平均より3%多かった。新芽数は、前年より15%、前5か年平均より7%少なかった(表4)。
- (4) 本年の収量増加は、新芽の生育が旺盛で、芽長・芽重が増加したためと考えられる。

2) これまでの気象 (4月～5月上旬、嬉野)

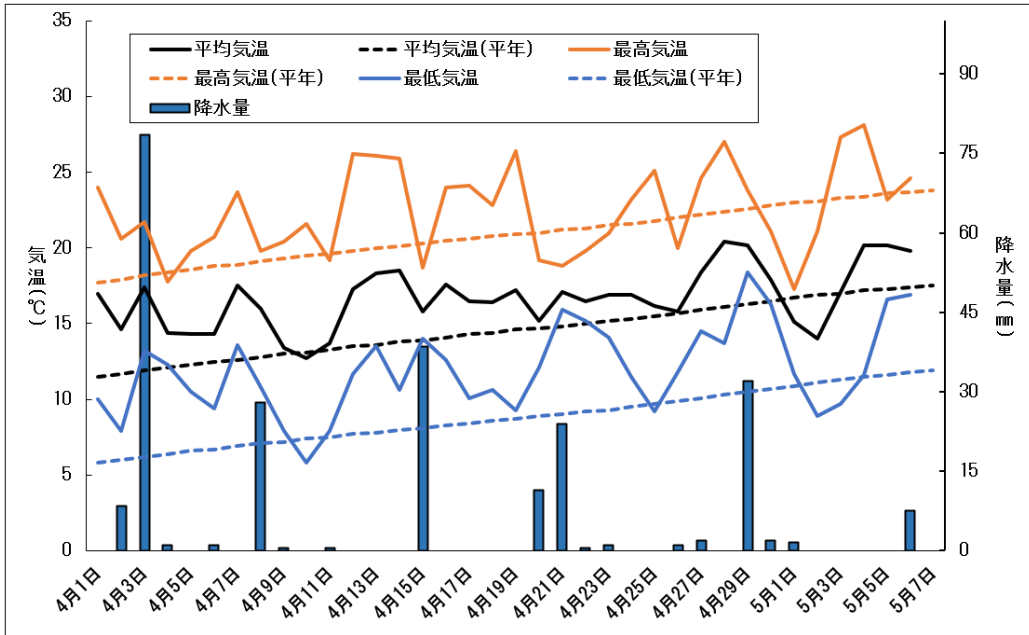


図3 2024年4月～5月上旬における日別気温および降水量

注) 平年値は1991年～2020年の平均値を表す。

- (1) 日別平均気温は、ほぼ平年より高く推移した。
- (2) 4月の降水量は合計230.5mmで、平年の194.1mmと比べ約19%多かった。

3) 今後の気象の見通し

■二週間気温予測

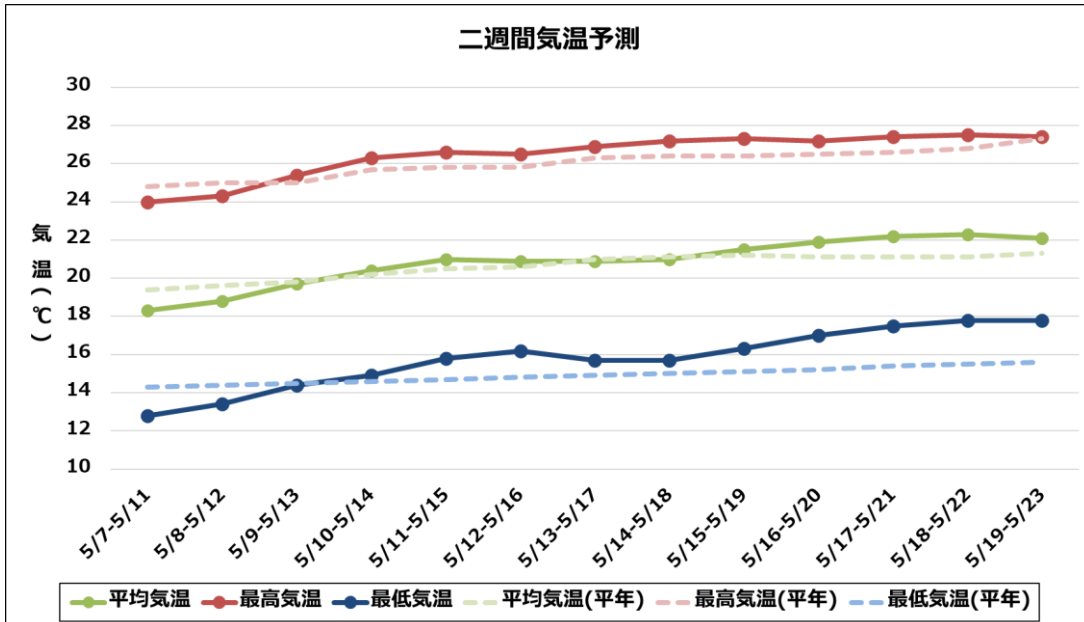


図4 5月7日～23日の気温予測

注) 予測対象要素の平均気温、最高気温、最低気温は、それぞれ日平均気温、日最高気温、日最低気温の半旬移動平均値。平均期間は各グラフのラベルの日付。

- (1) 向こう2週間は、平年並かやや高くなると予測されている。

■ 1か月予報（気象庁、令和6年5月2日発表）

向こう1か月の天候の見通し 九州北部地方（山口県含む）（05/04～06/03）			
	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
九州北部地方（山口県含む）	低10 並30 高60% 高い見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み

- （1）向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、高くなる見込み。
- （2）向こう1か月の降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。

2. 今後の管理

1) 刈りならし作業

（1）刈りならしの時期

- ①一番茶摘採から10～14日後を基本とする。

※気象庁の見通しでは気温は高くなる傾向のため、整枝・刈り均しのタイミングに注意する。

- ②一番茶の芽揃いが悪かった茶園（晩霜害を受けた茶園等）や早摘みした茶園では、遅れ芽の発生が著しいので、刈りならし時期をやや遅らせる（14～20日後）。

- ③2回刈りならしをする場合、2回目が遅すぎると二番茶芽を剪除し、生育のばらつきや減収の原因となるため、作業の遅れに注意する。

（2）刈りならしの位置

- ①刈りならしの位置は、基本的に一番茶摘採後に立ち上がった葉や遅れ芽を除く程度で、一番茶を摘採した位置で刈りならすようにする。二番茶芽にはハサミをかけないように十分に注意する。

2) 中切り更新

- （1）秋までの再生芽の生育期間を十分に確保するため、一番茶摘採後速やかに行い、平坦部では8月5日、山間部では7月20日までに再整枝を行う（中切りから再整枝までの期間は70～75日が目安）。

- （2）近年、夏季の高温・干ばつが頻発しているが、今後の気象予報を参考にしながら深さを決定する。また、処理直後に樹上散水（0.5～2t/10a）を行うことで、新芽の再生が促進される。

- （3）石灰窒素の散布は、枝条残渣の分解促進並びに樹勢回復に有効である。

3) 土壌・肥料

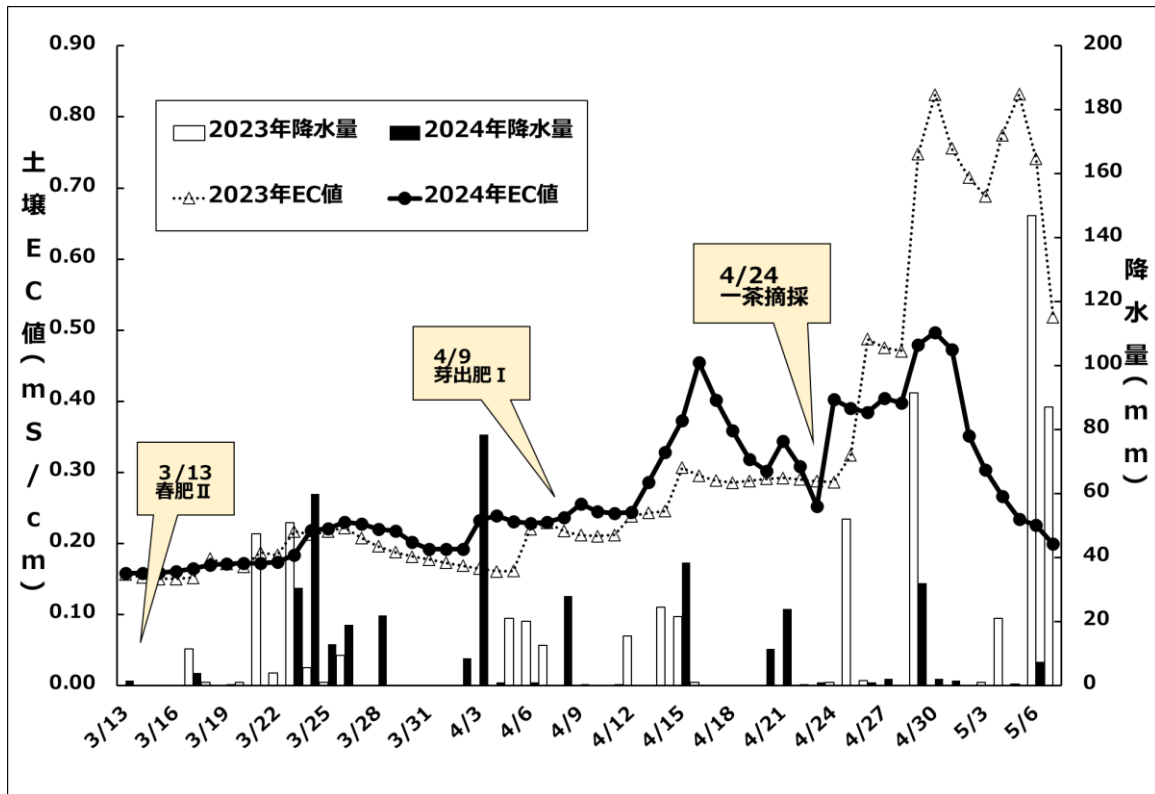


図5 茶試作況調査園における土壌 EC 値の推移

注) 本年の土壌 EC 値は、雨落ち部の深さ 25 cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値に基づき補正した値を示す

- (1) 土壌 EC 値は、4/15~4/30 の降雨時に大きく上昇した後、大きく減少しているため、二番茶夏肥 I は、一番茶摘採 2 週間後までに確実に施用し、施用後は土壌とよく混和する。